

Figure 64. 各臨床群における表出言語スコアの得点分布

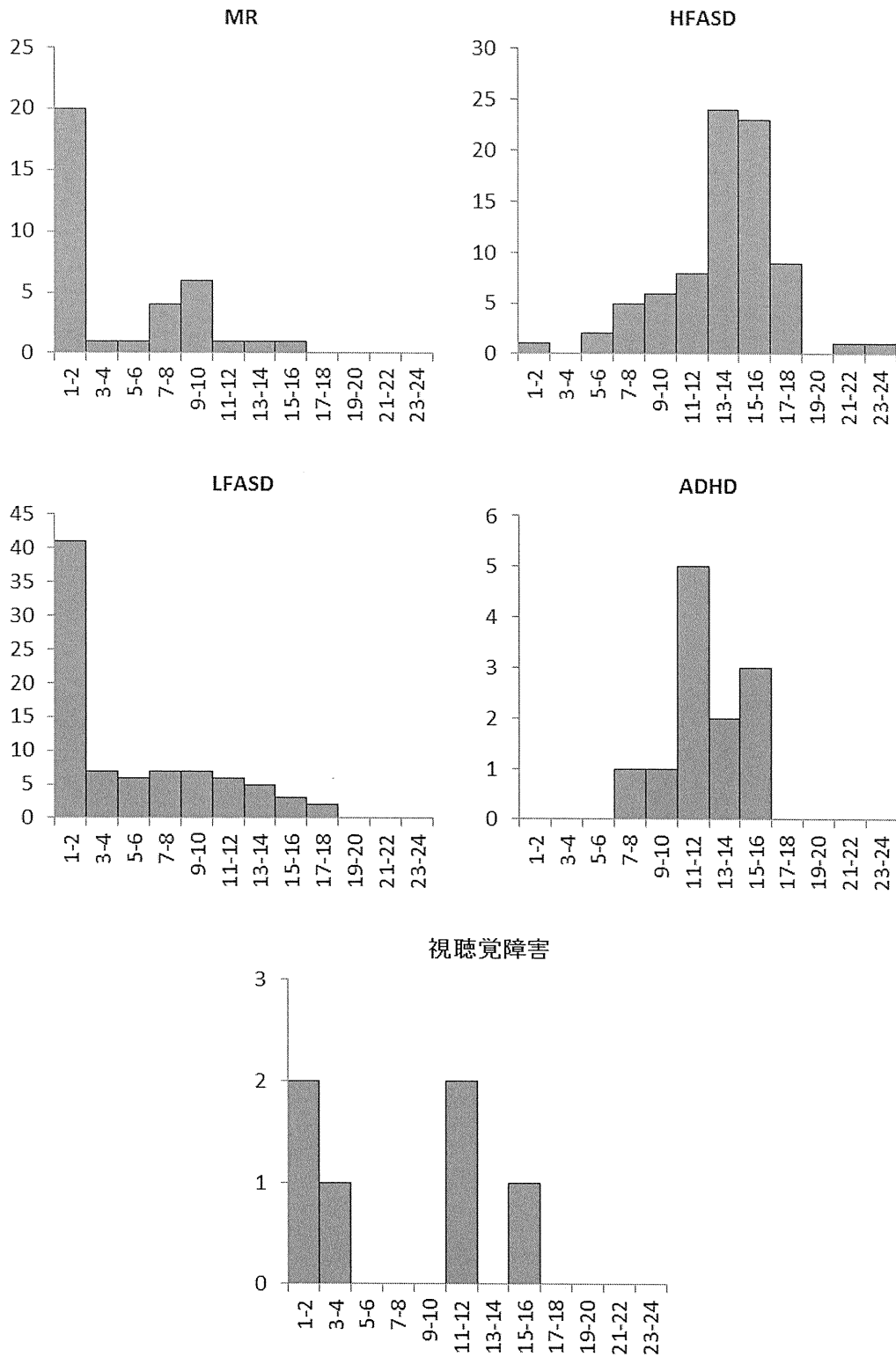


Figure 65. 各臨床群における読み書きスコアの得点分布

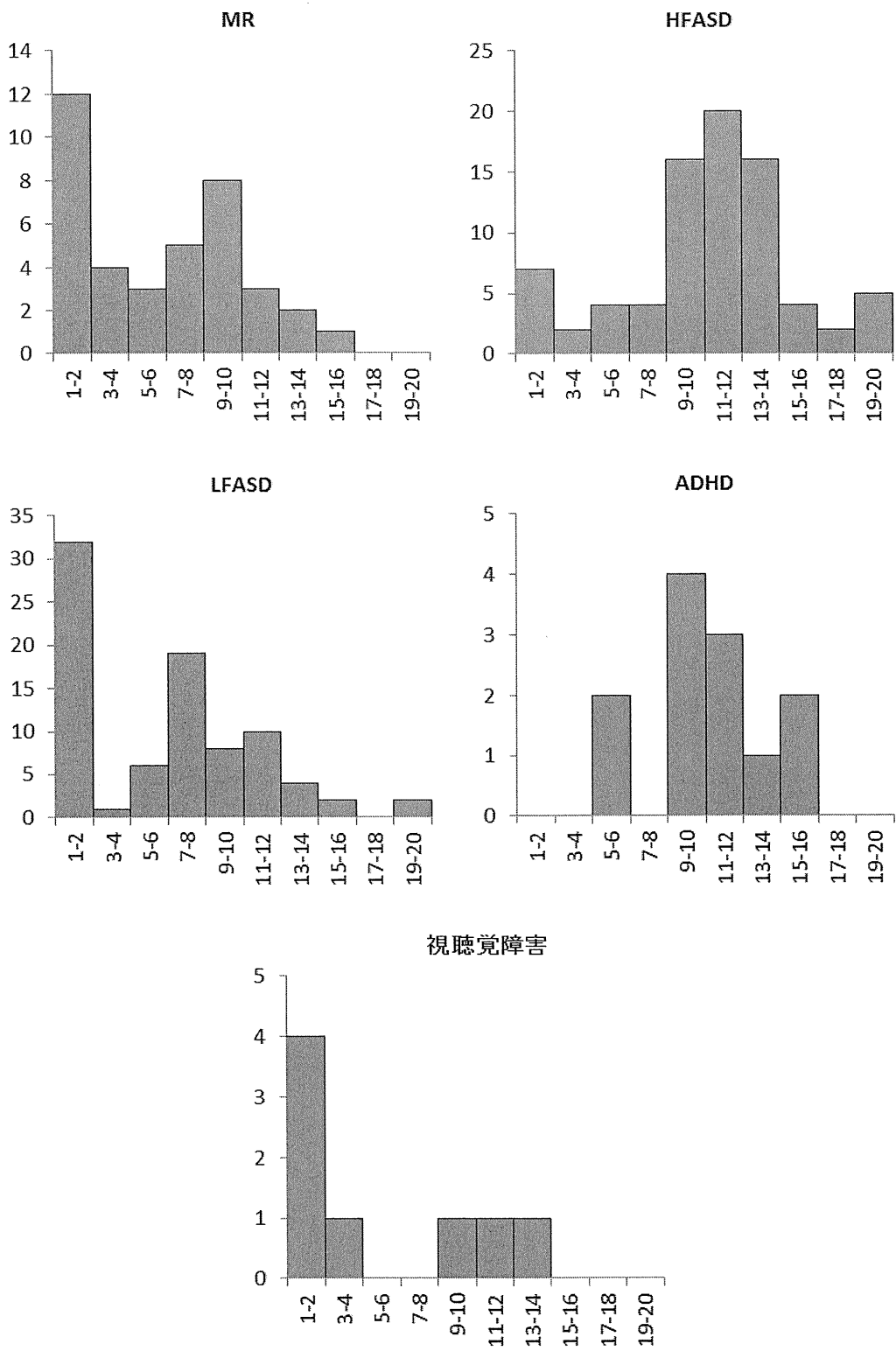


Figure 66. 各臨床群における身辺自立スコアの得点分布

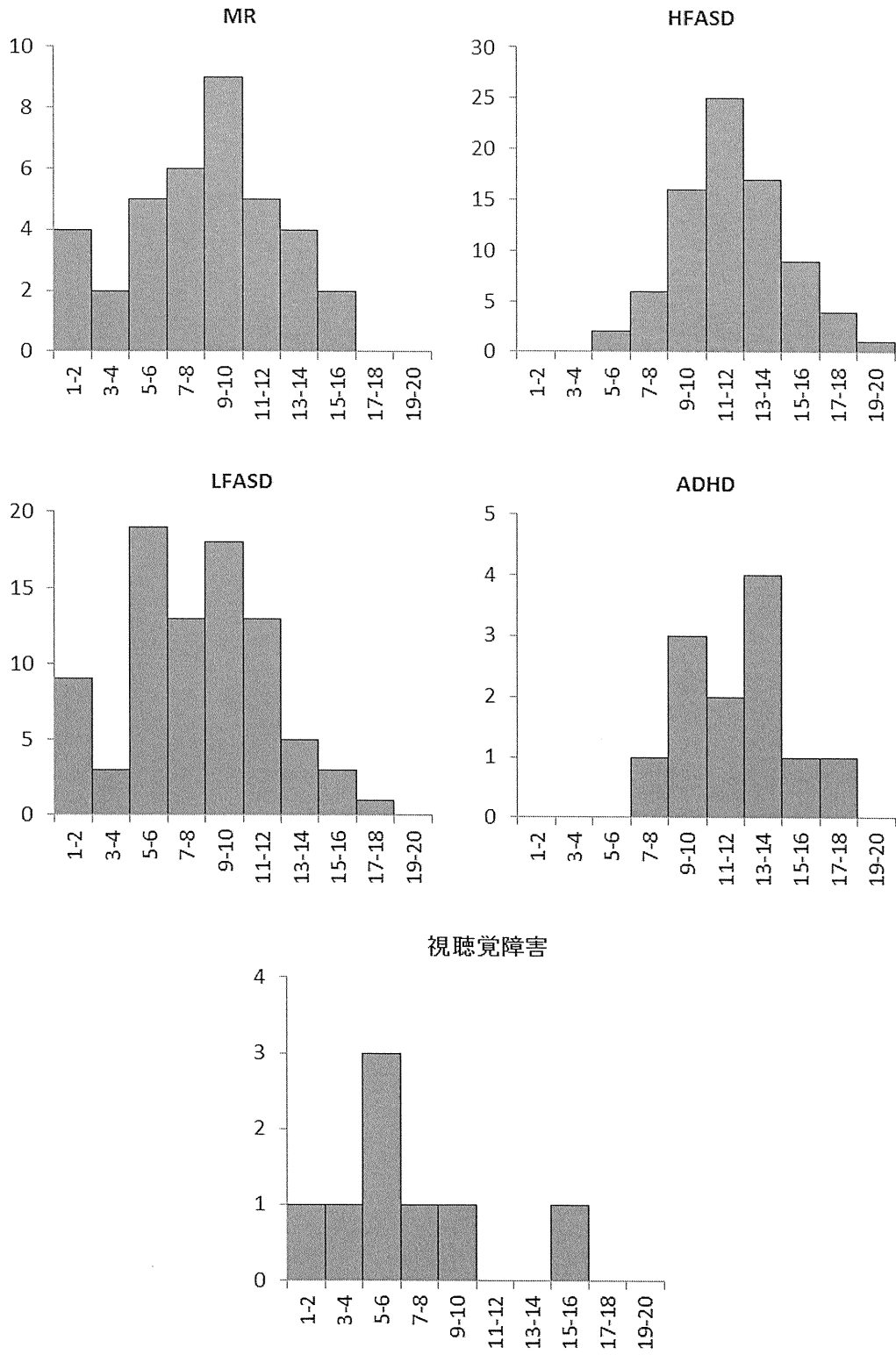


Figure 67. 各臨床群における家事スコアの得点分布

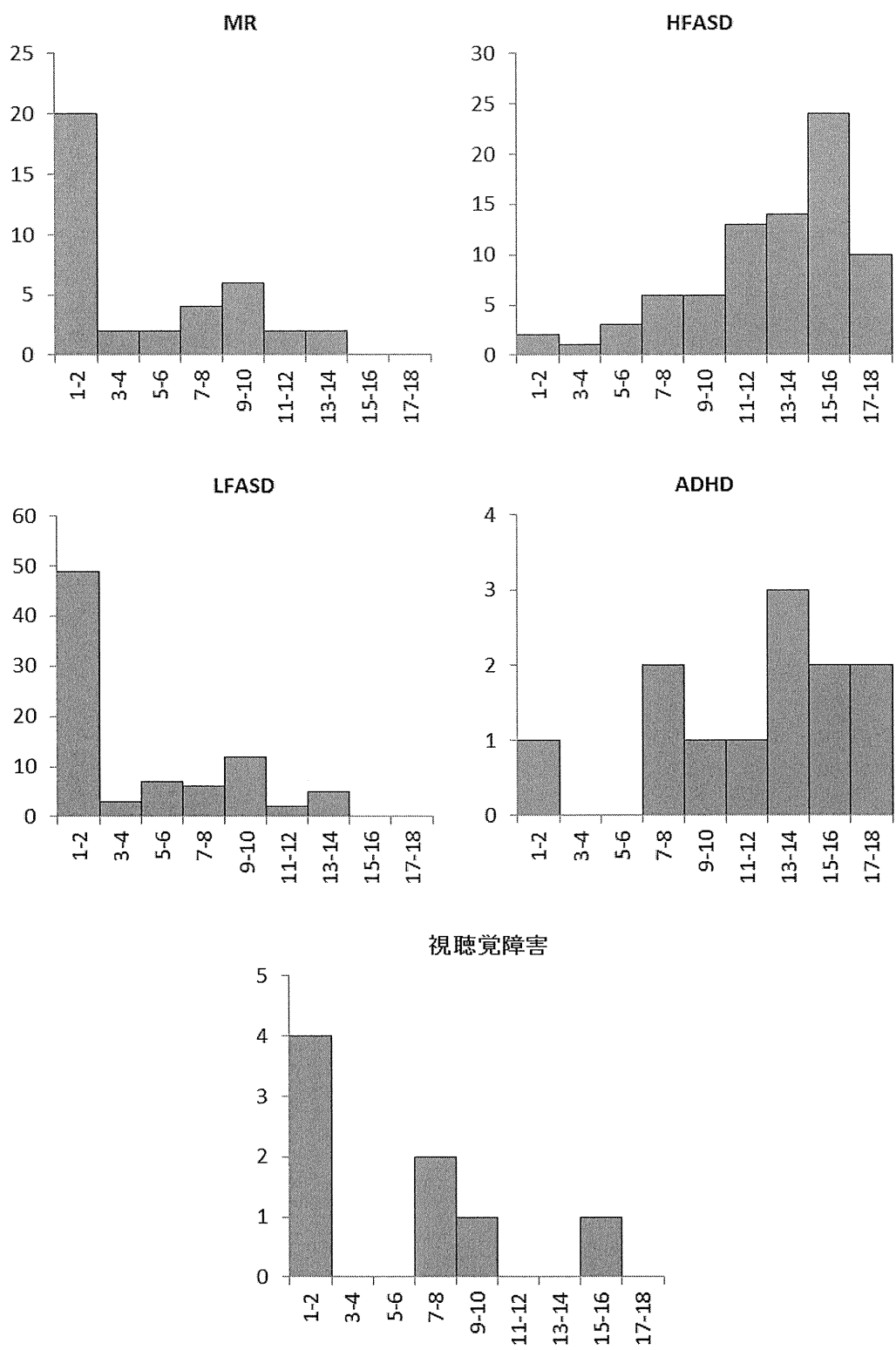


Figure 68. 各臨床群における地域生活スコアの得点分布

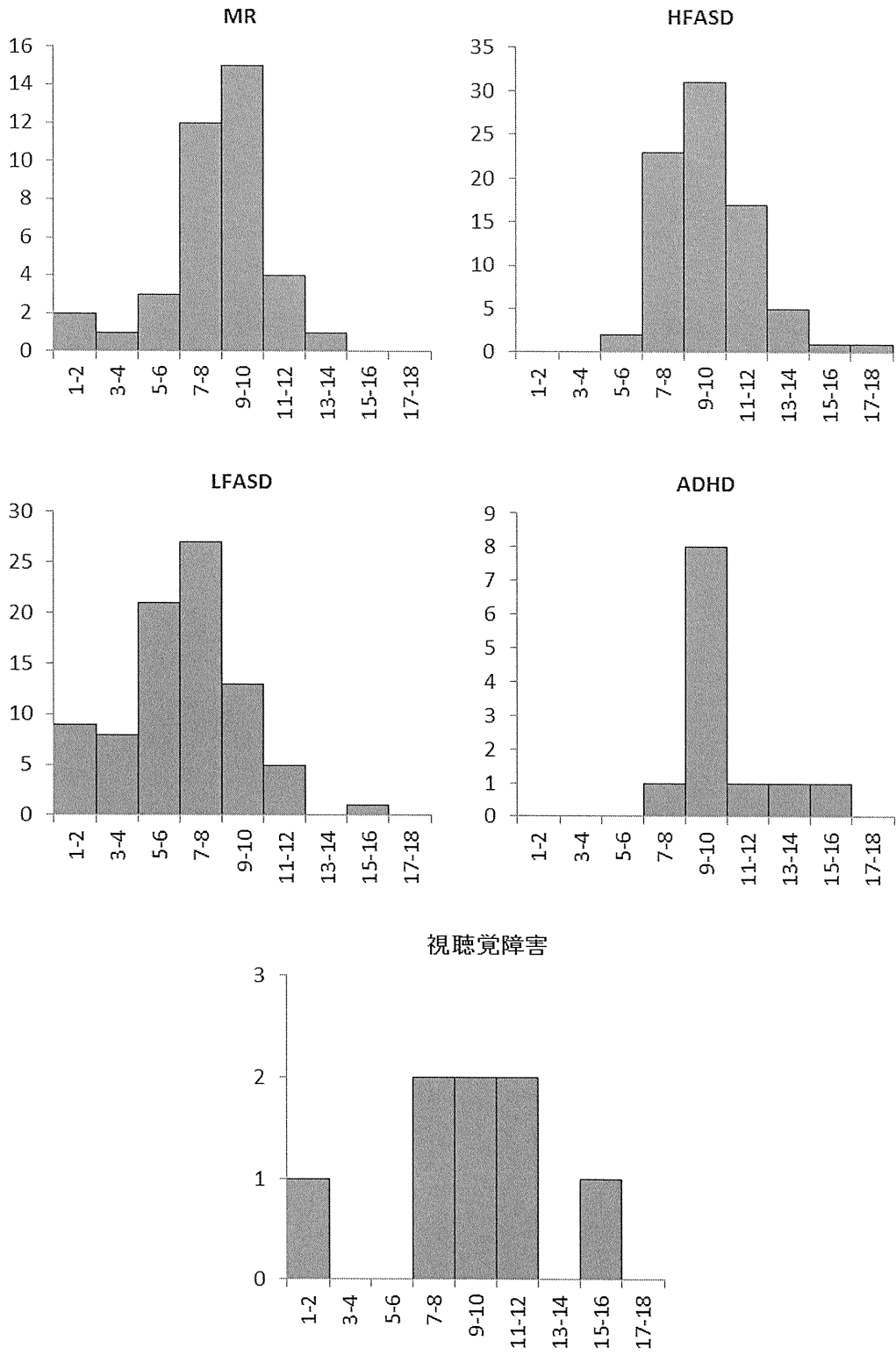


Figure 69. 各臨床群における対人関係スコアの得点分布

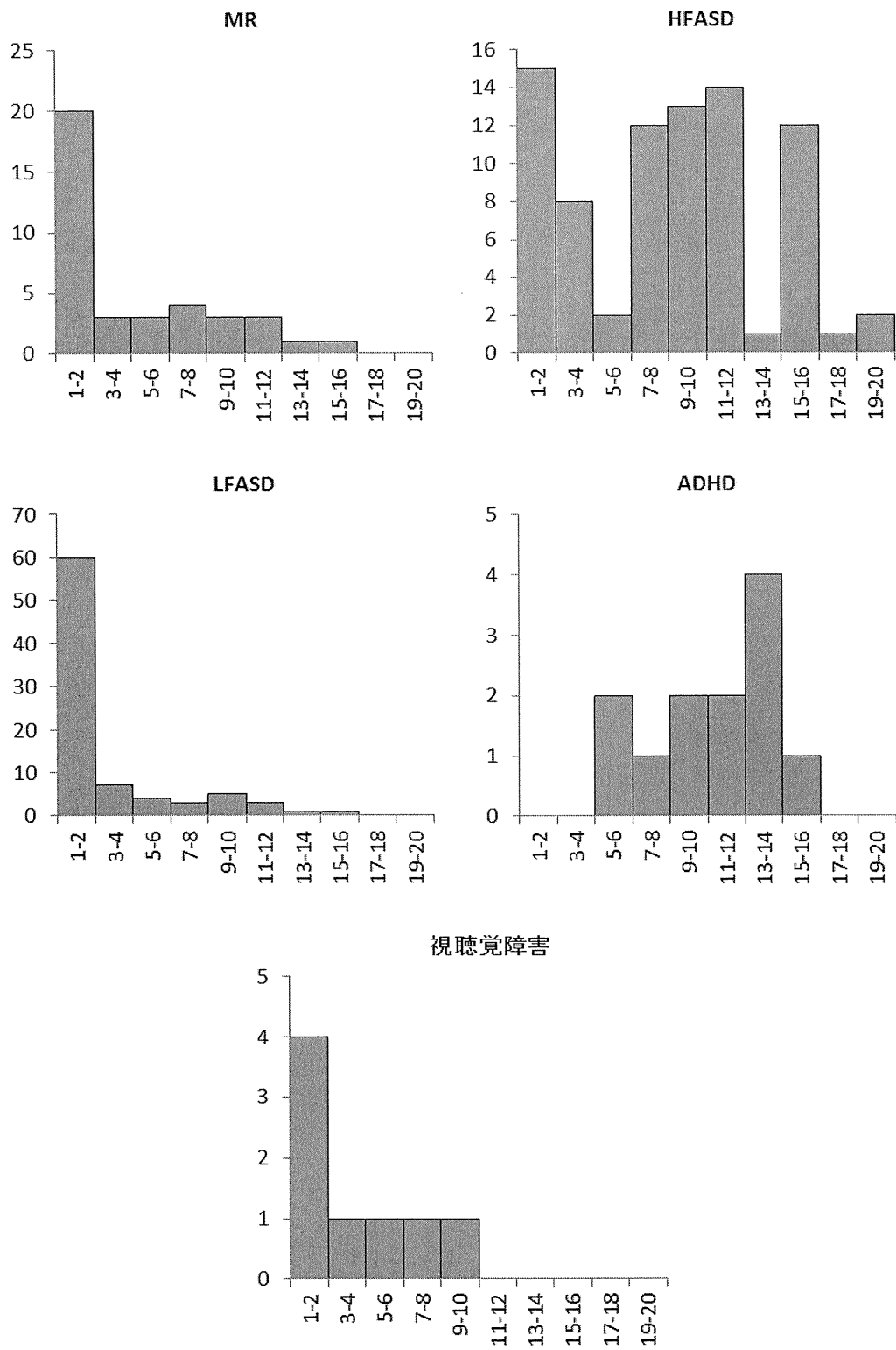


Figure 70. 各臨床群における遊びと余暇スコアの得点分布

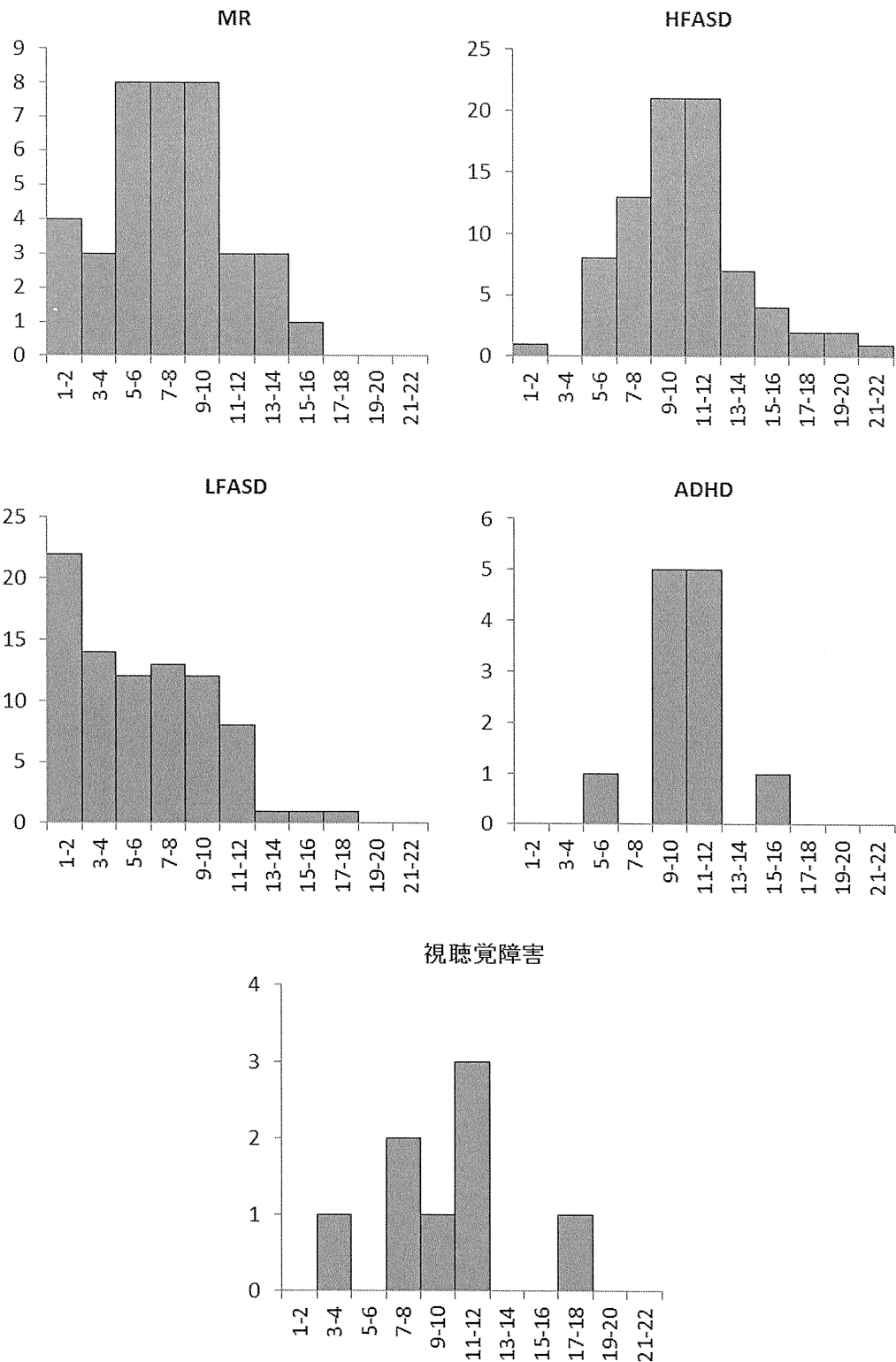


Figure 71. 各臨床群におけるコーピングスコアの得点分布

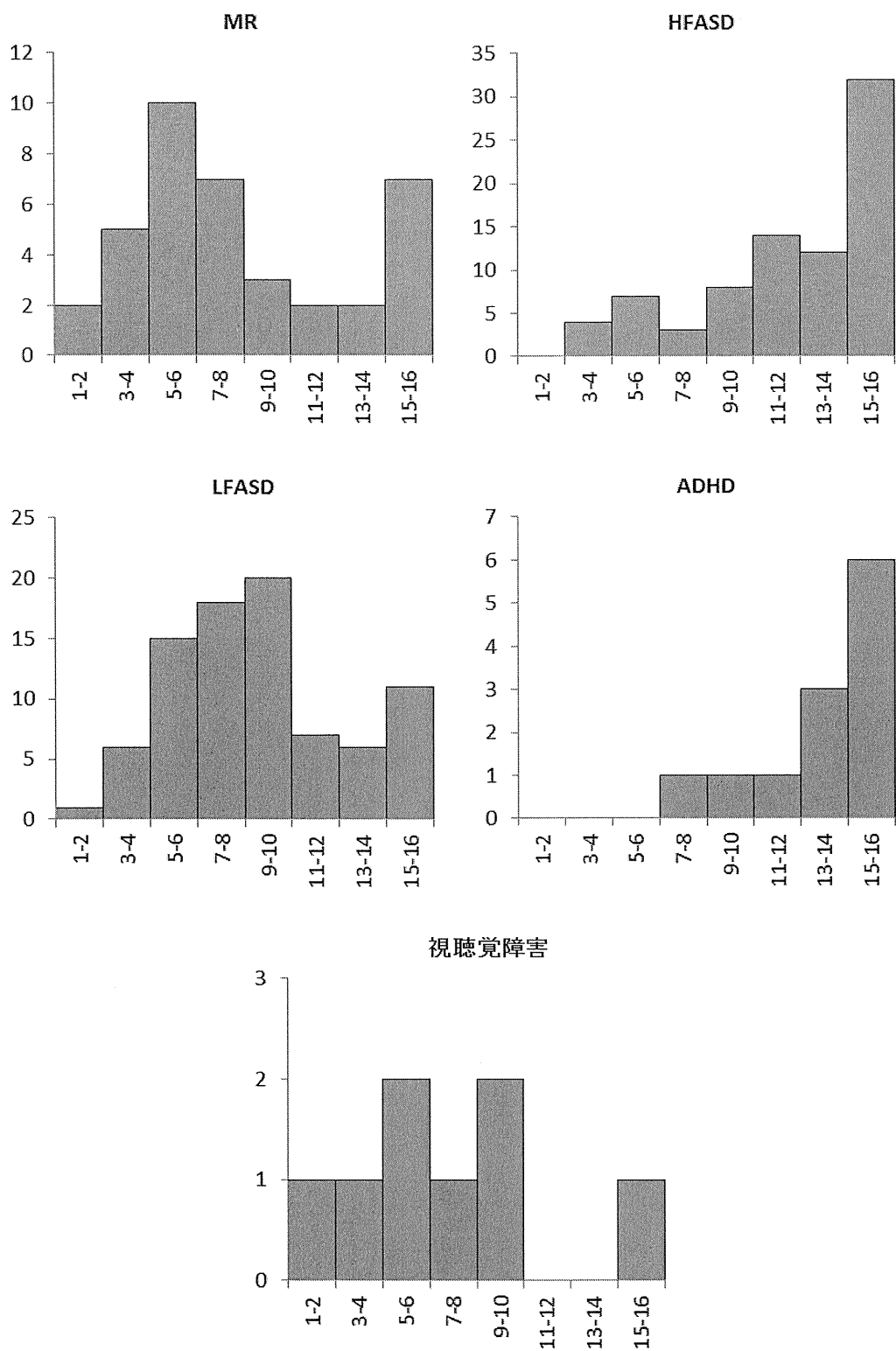


Figure 72. 各臨床群における粗大運動スコアの得点分布

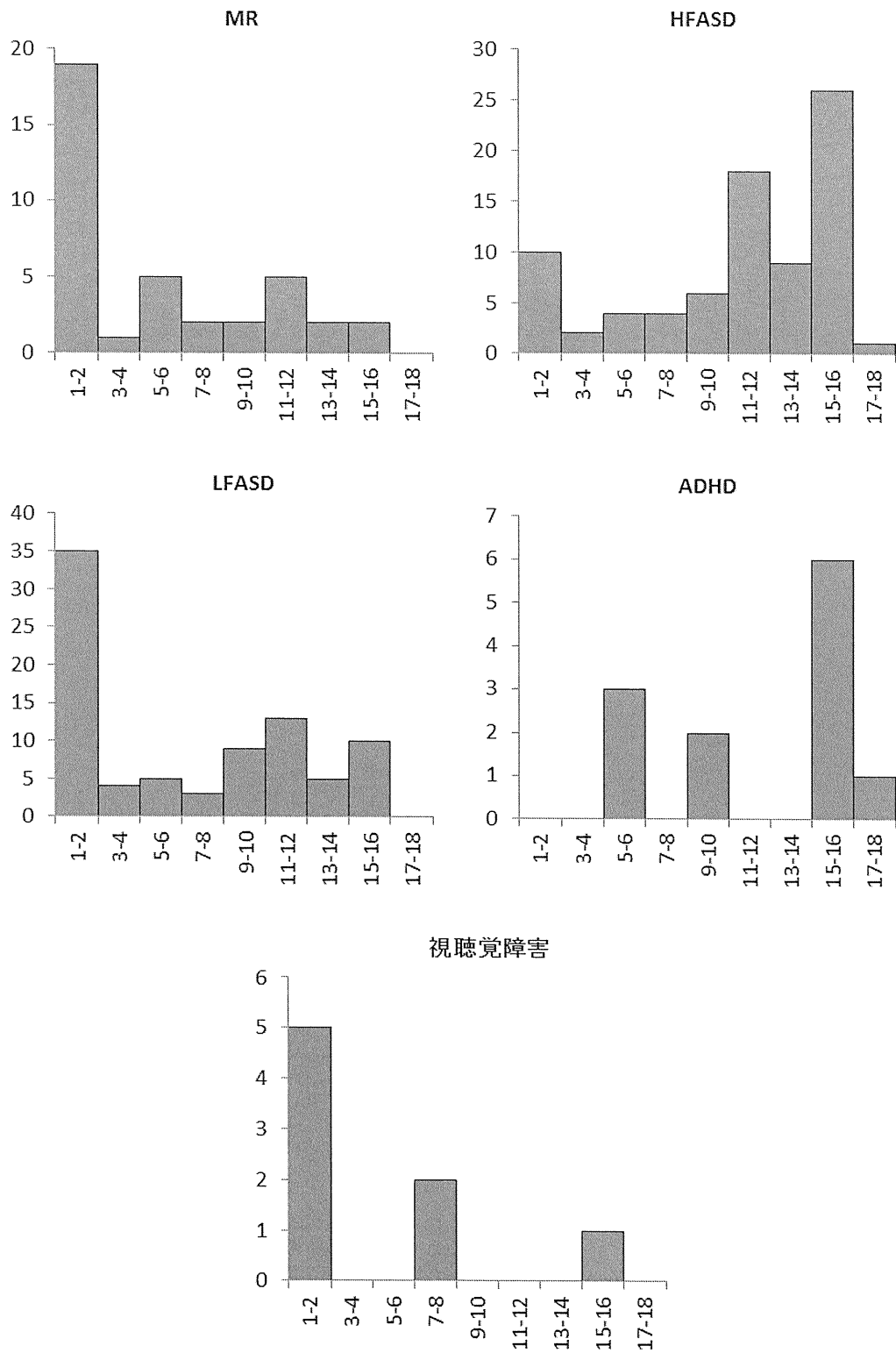


Figure 73. 各臨床群における微細運動スコアの得点分布

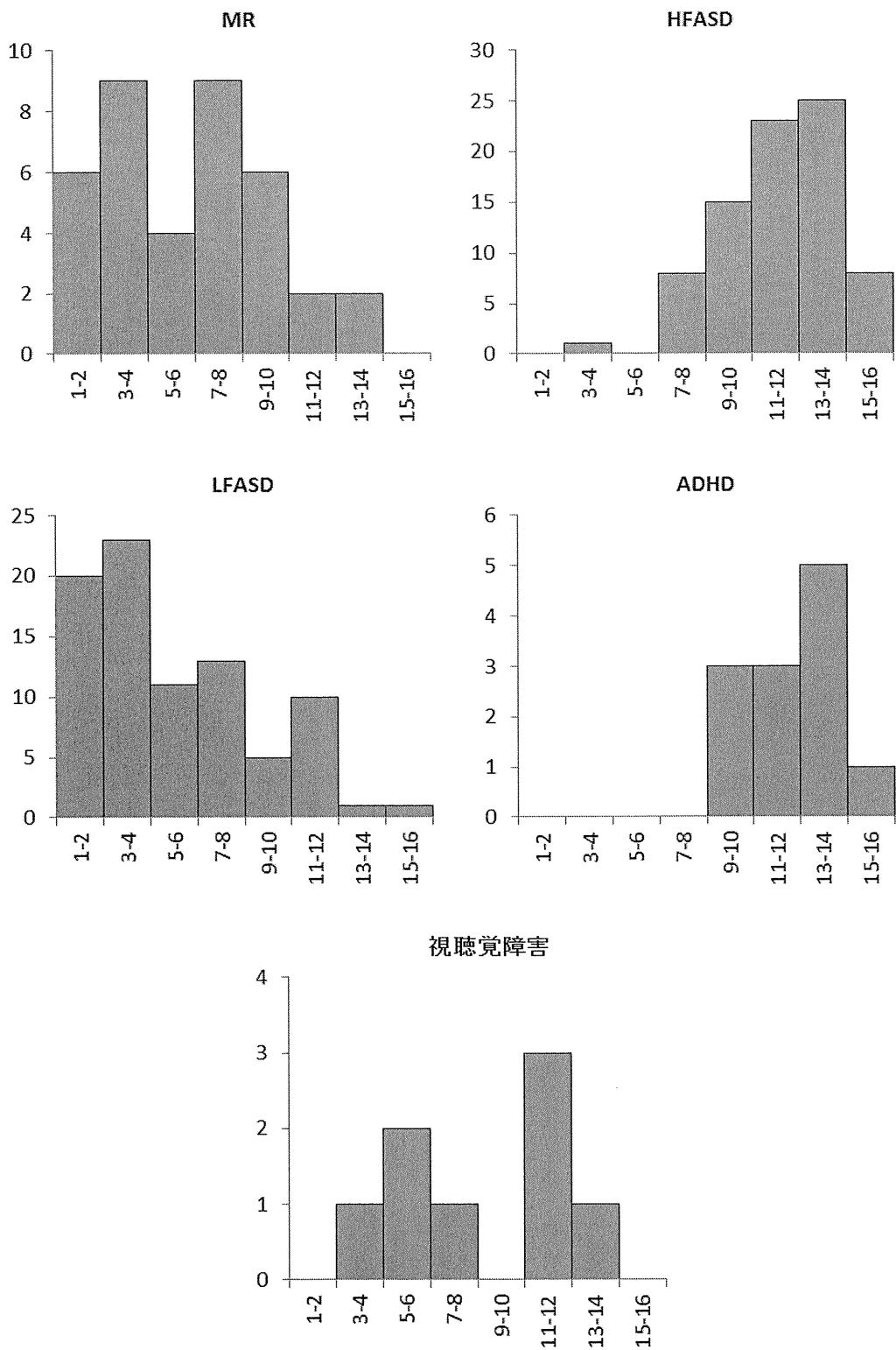


Figure 74. 各臨床群におけるコミュニケーションスコアの得点分布

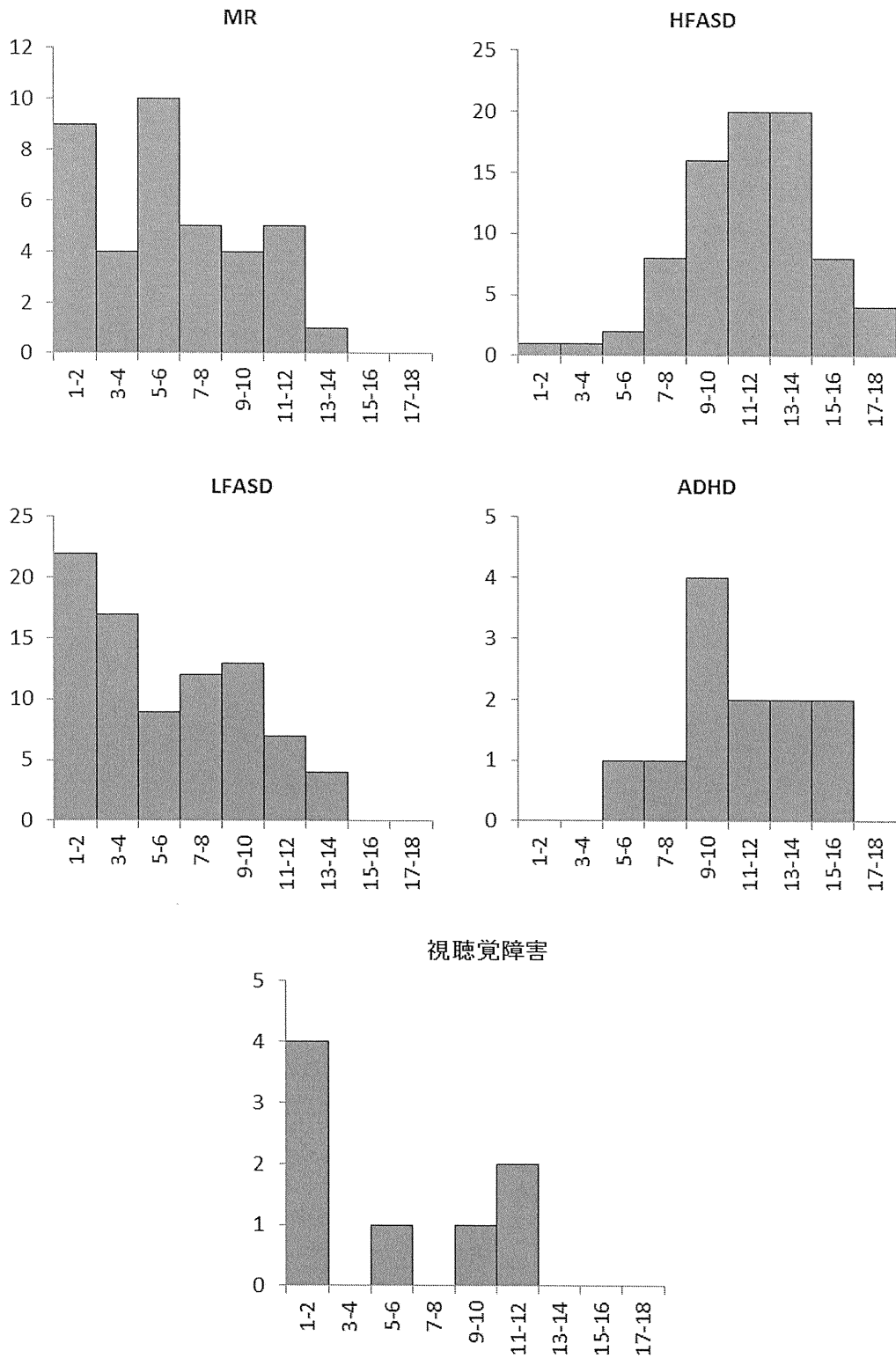


Figure 75. 各臨床群における日常生活スキルスコアの得点分布

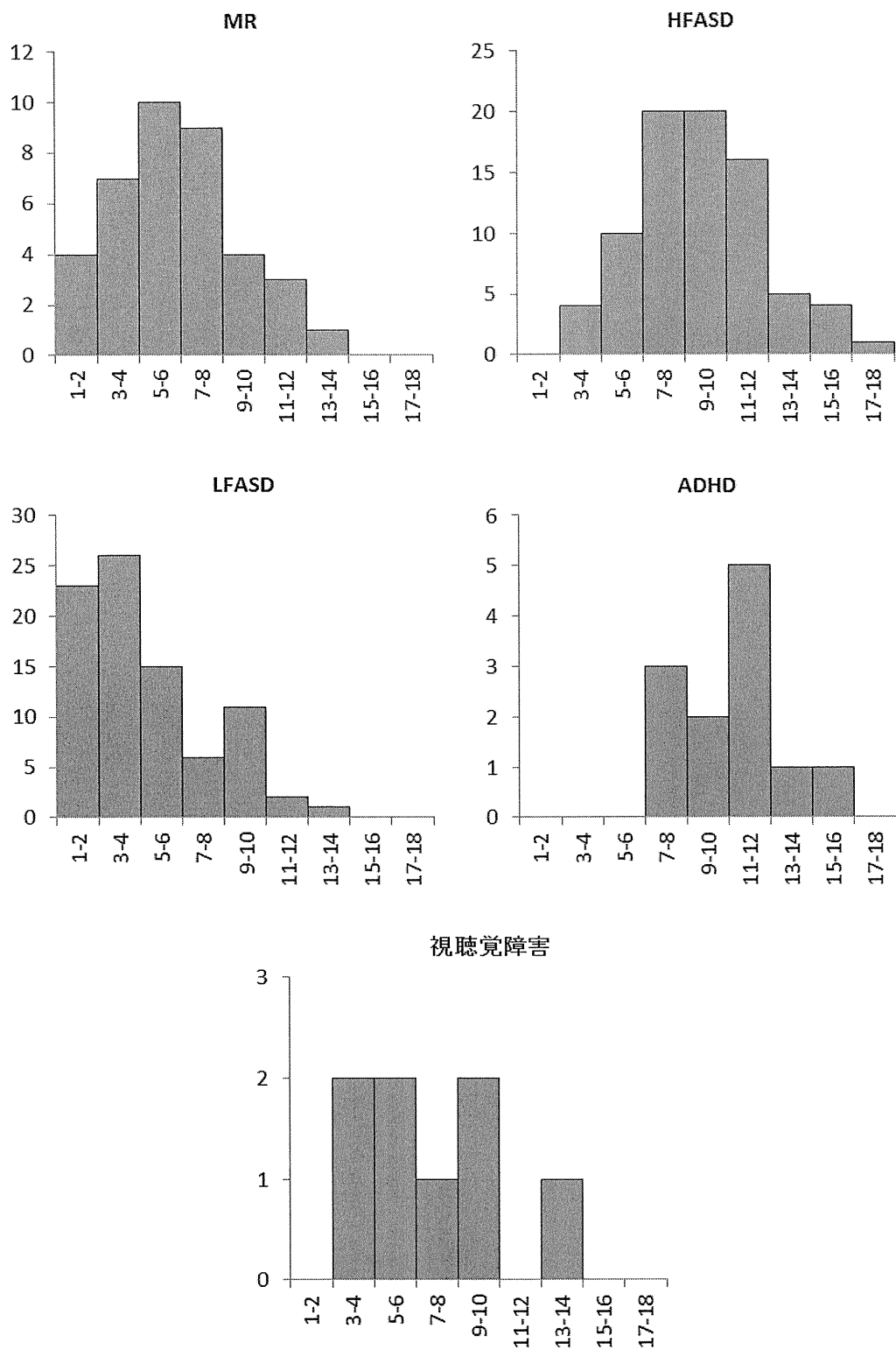


Figure 76. 各臨床群における社会性スコアの得点分布

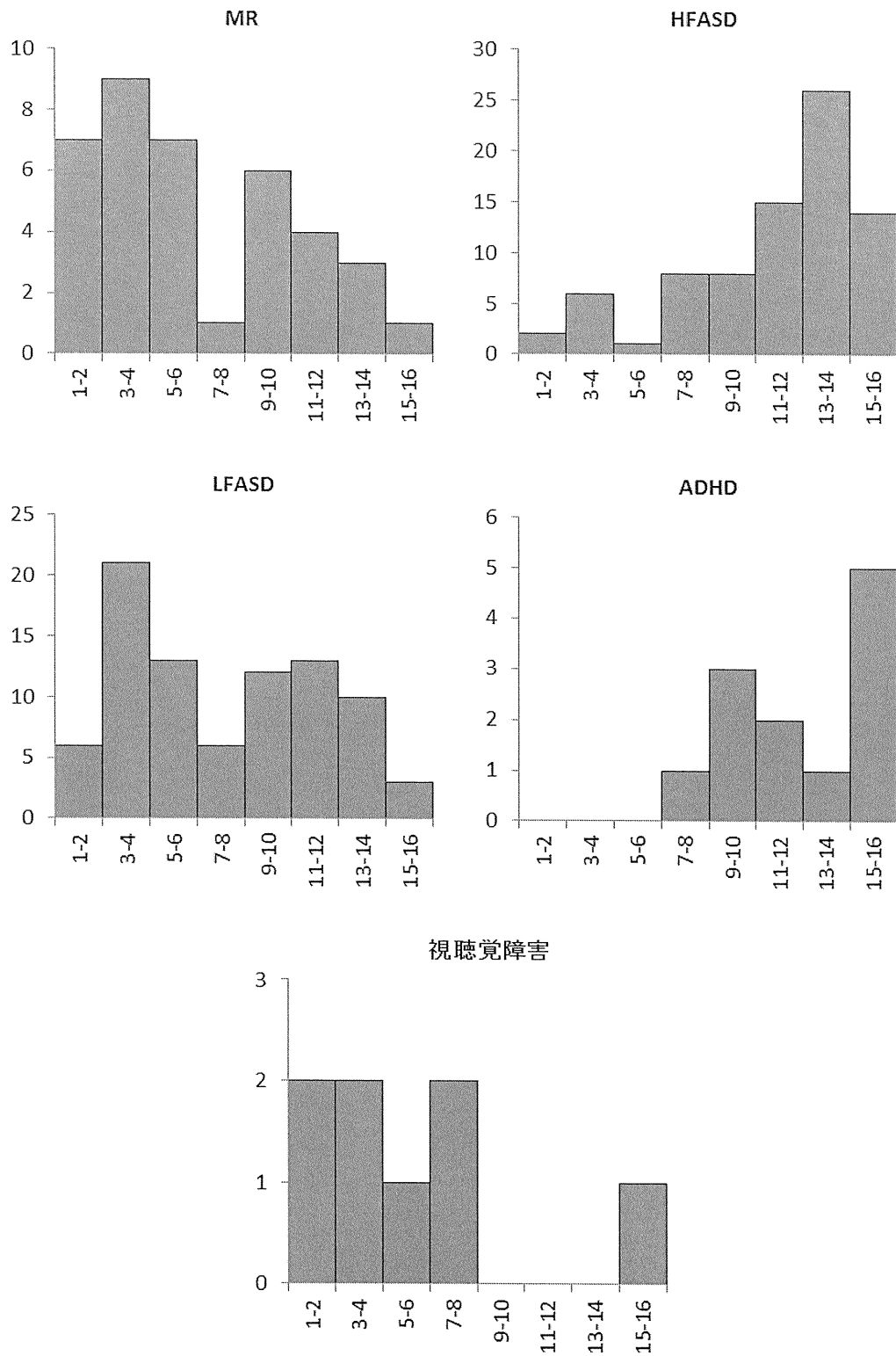


Figure 77. 各臨床群における運動スキルスコアの得点分布

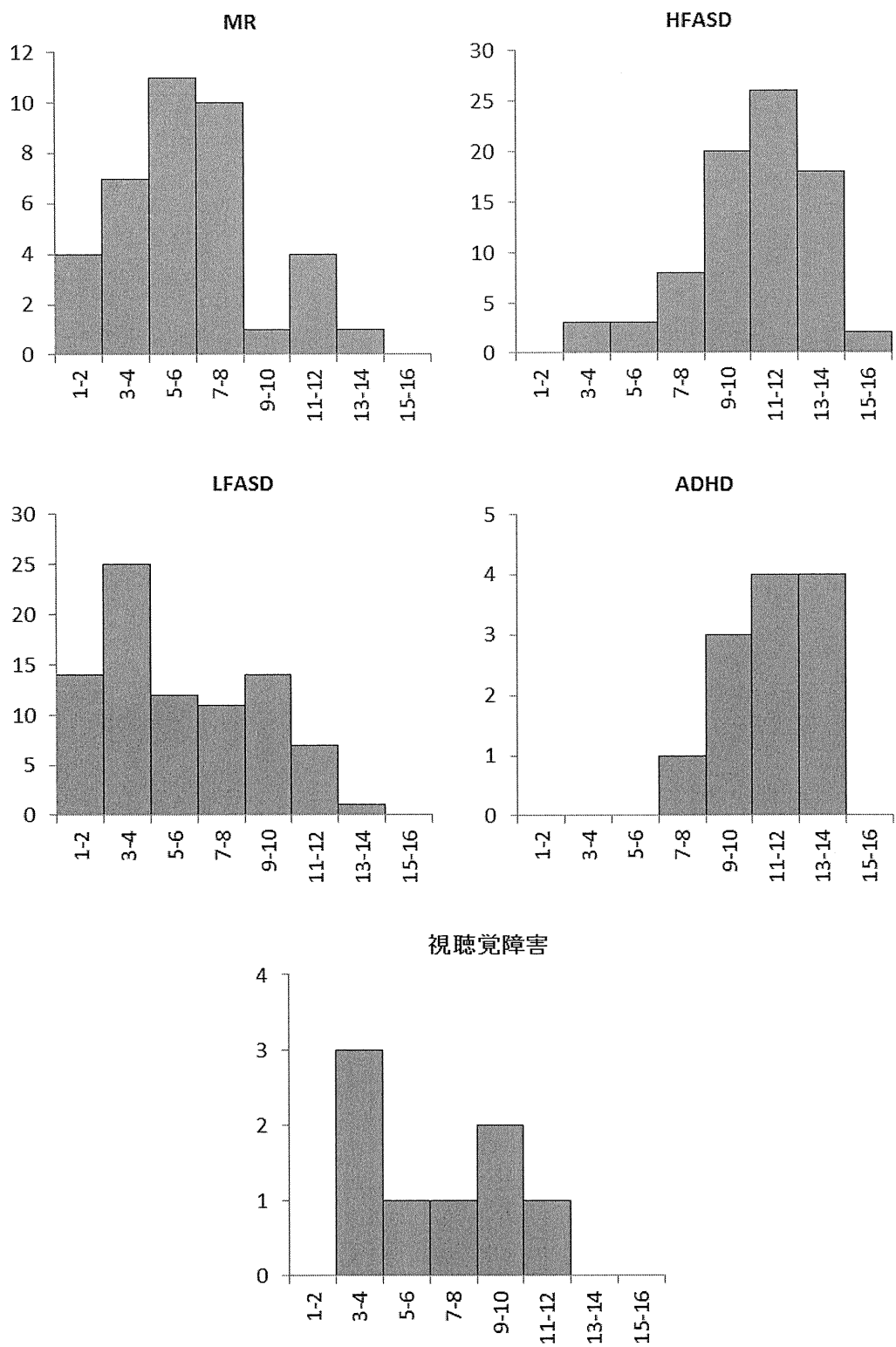


Figure 78. 各臨床群における適応行動スコアの得点分布

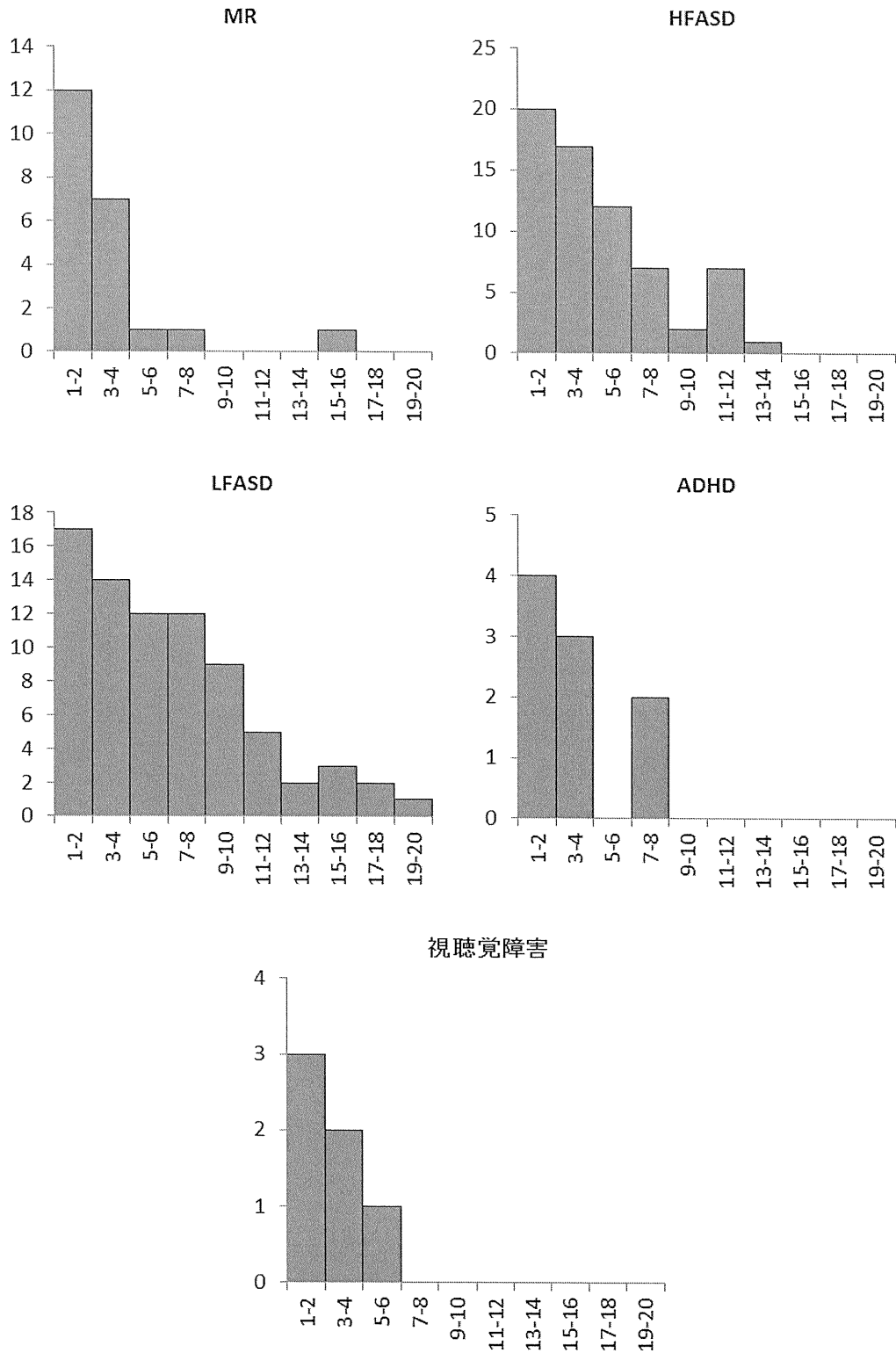


Figure 79. 各臨床群における不適応内在化スコアの得点分布

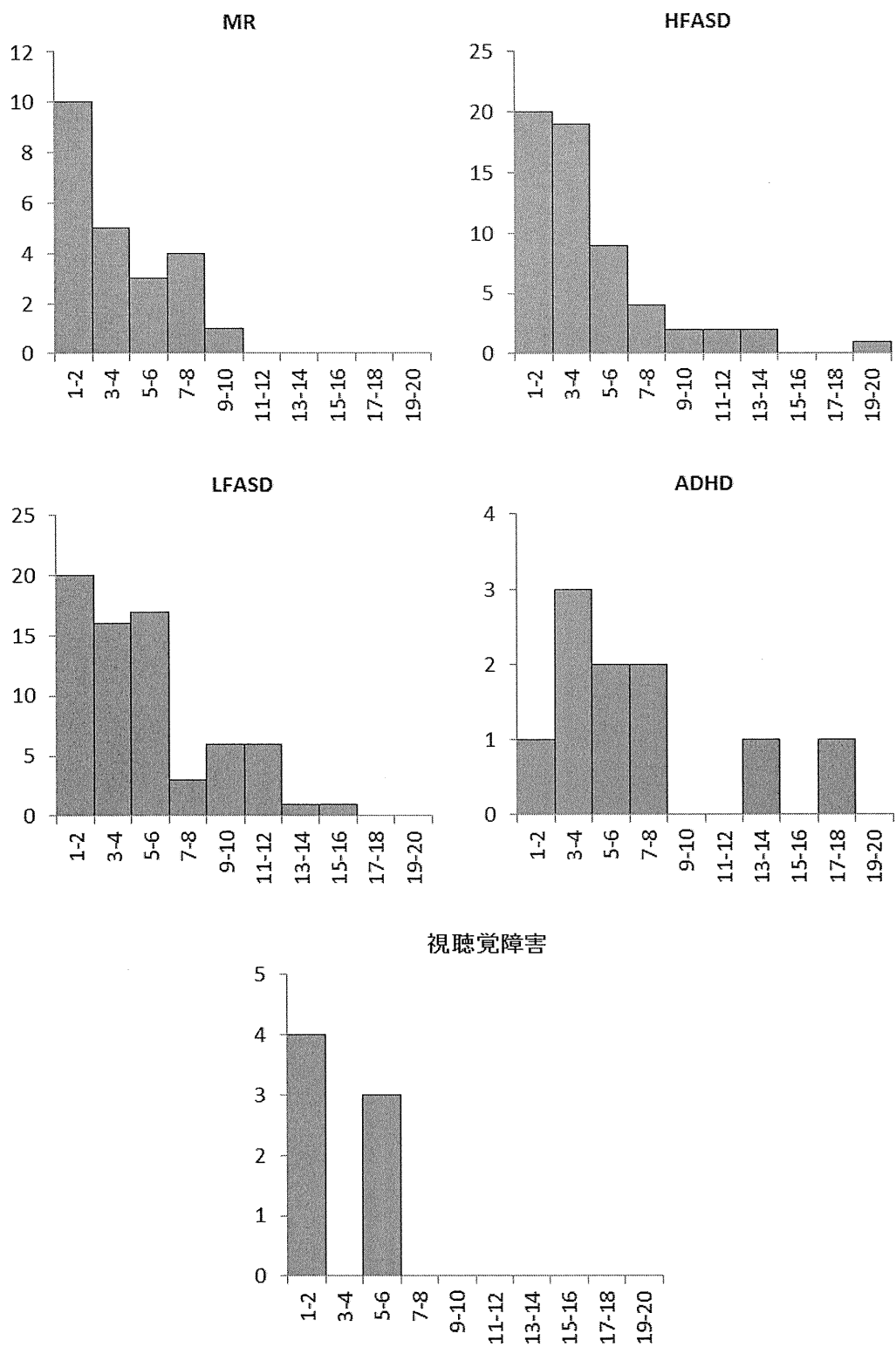


Figure 80. 各臨床群における不適応外在化スコアの得点分布

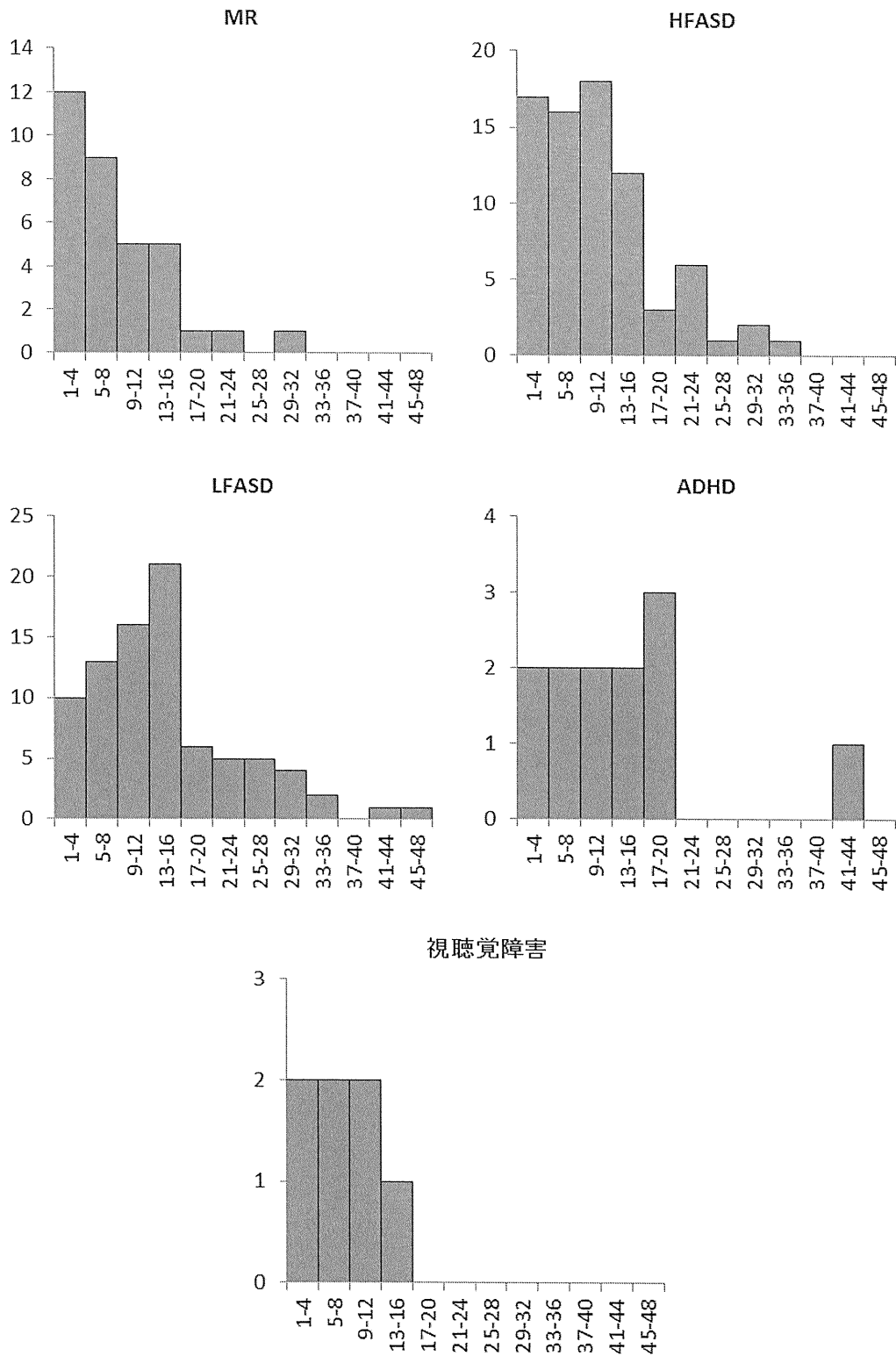


Figure 81. 各臨床群における不適応行動スコアの得点分布

Table 31. VABS-II と IQ および PARS の相関

	IQ	PARSピーク評定					PARS現在評定	
		社会性	過敏性	常同行動	こだわり	合計得点	児童期	青年成人期
Vineland適応行動(下位領域)								
受容言語	.546 ***	-.550 ***	-.259 **	-.410 ***	-.104	-.436 ***	-.084	-.268 **
表出言語	.679 ***	-.489 ***	-.192 *	-.256 **	-.119	-.334 ***	.191	-.148
読み書き	.720 ***	-.420 ***	-.124	-.231 *	-.036	-.250 **	-.084	-.077
身辺自立	.485 ***	-.378 ***	-.209 *	-.309 ***	-.002	-.288 **	.248	-.098
家事	.539 ***	-.368 ***	-.049	-.249 **	.017	-.216 *	.006	-.085
地域生活	.732 ***	-.455 ***	-.092	-.262 **	-.016	-.269 **	.040	-.022
対人関係	.507 ***	-.618 ***	-.298 **	-.385 ***	-.174	-.478 ***	-.203	-.289 **
遊びと余暇	.547 ***	-.530 ***	-.211 *	-.343 ***	-.214 *	-.418 ***	-.071	-.189
コーピング	.560 ***	-.527 ***	-.271 **	-.347 ***	-.166	-.420 ***	-.200	-.301 **
粗大運動	.441 ***	-.386 ***	-.127	-.234 *	-.011	-.244 *	.202	-.006
微細運動	.437 ***	-.216 *	-.083	-.213 *	.110	-.122	.217	-.115
Vineland適応行動(領域)								
コミュニケーション	.758 ***	-.548 ***	-.210 *	-.333 ***	-.092	-.377 ***	-.020	-.176
日常生活	.684 ***	-.451 ***	-.129	-.299 **	-.005	-.288 **	.116	-.078
社会性	.610 ***	-.614 ***	-.280 **	-.395 ***	-.211 *	-.484 ***	-.161	-.274 **
運動スキル	.486 ***	-.320 ***	-.113	-.247 **	.067	-.193 *	.229	-.077
総得点	.723 ***	-.530 ***	-.197 *	-.350 ***	-.058	-.365 ***	.060	-.157
Vineland不適応行動								
不適応内在化	-.262 **	.152	.339 ***	.134	.287 **	.278 **	.483 **	.371 **
不適応外在化	-.091	.131	.146	.050	.146	.151	.133	.400 ***
総得点	-.246 **	.221 *	.356 ***	.211 *	.245 *	.322 ***	.434 **	.497 ***

* $p < .05$. ** $p < .01$. *** $p < .001$.

Vineland 適応行動尺度日本版における

標準得点算出のための新たな試み

分担研究者 村上隆 中京大学現代社会学部

分担研究者 伊藤大幸 浜松医科大学子どものこころの発達研究センター

分担研究者 行廣隆次 京都学園大学人間文化学部

分担研究者 谷伊織 東海学園大学人文学部

研究要旨

本研究では、Vineland 適応行動尺度第二版（VABS-II）日本版の標準化における標準得点（V-scale）算出のためのアルゴリズムについて検討を行った。VABS-II を用いた適応行動の評価にあたっては、各個人の年齢段階における相対的位置を知るために標準得点を算出する必要がある。しかし、VABS-II の得点分布は、特に一部の年齢帯ではフロア効果や天井効果によって正規分布とはかけ離れたものとなるため、サンプルから得られた平均値と標準偏差から直接標準得点を求めることは望ましくない。原版ではこの問題に対処するために、Johnson の曲線適合プログラムに基づく方法を用いているが、この方法には推定値の不安定さのために主観的な補正の必要が生じるなどの問題があり、最善の方法とは考えにくい。そこで本研究では、最小二乗法による系列範疇法に基づいて各年齢区分の累積度数分布を正規分布に近似する方法を用いて標準得点の算出を試みた。一部の低位領域で原版と異なる結果が得られたものの、全般的には原版とほぼ一致する結果が得られており、VABS-II 日本版の標準得点算出のアルゴリズムとして使用できる可能性が示された。

A. 問題の所在

VABS-II の実施の結果として得られる素点は、そのままでは対象者個人の評価や診断に用いることができない。VABS-II のような、ほぼ life-span の全域にわたる発達段階を測定しようとする尺度においては、対象者の年齢ごと、あるいは、発達のより初期の段階においては月齢ごとの標準に照

らした進み-遅れが判断される必要があるからである。すなわち、素点は年齢ごと、あるいは月齢ごとの標準得点に変換した上で、評価・診断に利用される必要がある。VABS-II においては、領域ごとに 1~24 点の範囲の v-scale に変換して用いることになっている。また、v-scale は正規分布することが前提であり、上記の得点範囲は、<